

審議会会議録

会議名称	平成27年度 第4回伊達市まち・ひと・しごと創生有識者会議		
議 題	議事 (1) 協議事項 ①伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略 素案について		
開催日時	平成27年8月26日（水）18:30～19:50		
場 所	伊達市役所 2階会議室A・B		
出席委員	石井吉春 委員、樽見弘紀 委員、渡邊源之 委員、宇佐美雅昭 委員、 池田茂樹 委員、大矢大介 委員、的場重一 委員、毛利元幸 委員、 川村 守 委員、進藤 慎 委員、影山吉則 委員、鍵谷好徳 委員、 杉原 茂 委員、館崎雄二 委員、栗山潤一 委員、木村秀雄 委員、 小畑次男 委員、尾川圭延 委員（計18名）		
	所管部課名	企画財政部企画課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者人数	2名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開 会（事務局：企画課長）</p> <p>2. 議 事</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①伊達市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略 素案について</p> <p>【事務局より説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加説明 <p>日本版CCRCについて、交付金の関係上好機ということで、西いぶり定住自立圏の3市3町においても、手を上げるということで検討したいが、昨日国の方からその際は総合戦略に盛り込むように提示があったところ。ただし、どのように総合戦略に掲載すれば良いか等の詳細は決まっていない。</p> <p>総合戦略への記述の方法については、昨日の今日のことなので、資料としては用意していないが、座長と調整の上、決定させて頂くということでご了承頂きたい。</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p>■座長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本版CCRCは、新型交付金を活用するということが、広域で取り組むという意味があることから、書くことをお認め頂いた場合は、事務局と座長に一任させて頂ければと思う。 <p>□委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素案P45のような2060年の姿はイメージしやすいが、1行目、「人口減少に歯止めがかかりました」とあるので、例えば、2060年以降の人口推計のグラフを平坦にする等してはどうか。出生率の設定等の細かい数字はおくこととして。 			

■座長

- ・本当に「歯止めがかかる」ということは出生率に歯止めがかかっていることだと思うが、「これ以上下がらない目処が立つ」ということが書かれていれば良いのではないかな。
- ・一方、弱音の表現にするのであれば書かない方が良いので、工夫はするべき。相当程度落ち着くということで、一定の歯止めがかかる印象を与える表現にする。

□委員

- ・1章、2章は伊達の人口動態等議論の上、策定されてよろしいかと思う。ただし、将来5年間に向かって提案したいことが何点かある。3章の総合戦略編について、P42「①地域資源を活かした産業を育て、雇用を生み出す」にある「外貨を稼ぐ」「選ばれるまち」という表現はそのとおりであり、それを具現化していくのはP46以降かと思う。金融機関として何がお手伝いできるかということは、これから協議していきたい。
- ・例えば、伊達の野菜を使うにしても、ビジネスにしていかなければならない。市が補助金を出し続けるのはビジネスではない。伊達の野菜をPRするにしても、空き家の情報提供についても行政が行っている。外に発信していくのは、市役所や商工会議所だけではなく、誰がするのか、ということを確認にした方がよい。責任ある事業主体を作ることが重要になってくる。色々なビジネスを展開していく責任母体が必要ではないか。
- ・今回、近隣自治体との連携を視野に入れるということであるならば、まず伊達市から取り組んで欲しい。伊達だけではなく、1市3町で、例えば空き家情報を各自自治体で行うのではなく、西いぶりとして発信するといったことはどうか。しっかりした出資者がいて、株式会社化すればクリアできるのでは。例えば、ワイラジオという地域ローカルメディアができた、洞爺湖温泉に来ているインバウンドを1市3町に回す、PRの仕方によっていくらかでも呼び込めるのでは。物産館来場の110万人を1市3町へ回す。スマホコンテンツをつくり、Wi-Fi環境で見せる等、そうしたことは行政や商工会議所ではできない。
- ・ビジネスとして商売をしていくためには、事業者を減らさないことが必要。「起業のハードルが低い伊達市」を目指すべき。例えば、事業計画を作るのを支援する、人の支援も、技術の提供もする等、伊達市や1市3町で取り組みやすいんだという雰囲気を作っていくことは、移住促進にもつながると思われる。
- ・結局は経済が活性化すれば、人は集まってくる。これからの展開の時に考慮して欲しい。

■座長

- ・役割分担をどうするかは重要な視点。今は市ができることが書いてあるのが実態で、スタートラインはそれに限定してもよいと思う。基本的な動き出しの時に、人にやってもらうことばかり書くことは実効性が薄いものになる。動かしていく時に、次のステップとしての位置付けということだと思う。

●事務局

- ・CCRCも含めて広域的な取り組みは重視しているが、時間がない中でなかなか他の市町との具体的な事業は構築できなかった。これから適宜協議していきたい。
- ・プレーヤーについては、まずスタート地点として行政がコミットするが、如何に民間にシフトしていくかということは、これを進めていく上で考えていきたい。

□委員

- ・PTAという立場からは、子どもたちを参加させるような体制も考えて欲しい。例えば、PTAの体制づくりでクリアしていかなければならない点もあるが、観光物産館での何かしらの取り組みに、子ども達が参加する等。
- ・その他、家業が農業という点から農業について触れさせていただくと、製菓会社の商材の栽培を展開している農家も数件ある。伊達市だけではなく日本の健康にも貢献していくということで重視していくべきではないかと思っている。

□委員

- ・学校教育の現場からみると、2040年の担い手をつくっていかなければならない。そのためにはP53の「伊達に住むことを誇りに思う意識の醸成」に重きをおいてやっていかなければならない。短期中期長期で言えば、長期にあたる。
- ・P47は観光物産館「等」と含みをもたせている一方、P53は「総合文化館やアートビレッジ」

と限定しているのが、狭く場所を限っているように思う。学校の夜の活用もあるし、将来的学校の統廃合が出てきた場合の活用の問題も出てくると思う。限定的な印象を与えないようにした方がいいと思う。

●事務局

- ・「等」という表現を用いるなど、限定的な表現は避けることとしたい。

□委員

- ・総合戦略のKPIの指標で、H26年度のものがないのは、件数がないのか、対比ができるようにした方がいいのではないか。3月以降、実績に対して検証を検討されていると思うが、検証自体は、KPIが対象か。

●事務局

- ・26年度の実績がないものについて、「―」で表記していたが、逆にわかりづらいただろうということで、現状の表記にさせてもらった。また、事務事業評価におけるPDCAは、KPIに対してのみではなく、事業の全体に対してどのような便益があったのか等を総合的に評価することになる。

□委員

- ・基本目標の数値は必要か。

●事務局

- ・必ずしも必要ということではないが、できるだけ目標数値を示した方が良いだろうということを示している。

■座長

- ・KPIだけで評価するのは難しいので、施策全体の中で評価していく必要がある。

□委員

- ・各施策については今後展開していく、ということだろう。今後PDCAを回していく際に、誤解を恐れずに申し上げると、見せ方が大事だと思う。外向きと、市民向けについても戦略が必要。個人的な話をさせて戴くと、1年前まで、1年9ヶ月、伊達支店長として赴任していた。ただ、伊達支店長の辞令を受け取った時、このまちの良さをイメージできなかった。その認知度を上げていくということは大事。住んでみて知ることも大事だが、来る前から伊達のまちの良さを伝え、バーチャルな体験も含めたPRの方法が重要。
- ・CCRC (Continuing Care Retirement Community) はまだ決まっていないとのことだが、CC (Continuing Care) に力点をおくのか、RC (Retirement Community) として、リタイア後のコミュニティに力点を目指すのか。伊達市のこれまでの取り組みを考えると、リタイア後の取り組みではないかと思うが、教えて頂きたい

●事務局

- ・まだ市町の方でもイメージの共有が出来上がっていないが、それぞれの地域での役割分担が必要ではないかとは思っている。室蘭では雇用、大学、医療の提供といった部分を担う。伊達の場合は住環境の良さ、このノウハウの共有、そして各地域で取り合うのではなく、特徴を活かした住環境の提供といったこともある。伊達市が何を目指すかというより、地域全体としてどう展開していくかを考えていくことになろう。

■座長

- ・伊達市単体で見ても介護のようなケアを中心に、というのは現実的ではないだろう。

□委員

- ・P57のスケジュールは、期限の記載がなく、その中で、前・中・後期ということであっても、それではスケジュールとは言わない。これでは何もやらないだろうという印象を与えてしまう。

●事務局

- ・ここは5年間という期間の中での話となっているため、そのことは明記したい。

■座長

- ・文章の中で前期は概ね1年、中期で2年、後期で2年と書いてもさほど無理がないと思う。

□委員

- ・委員が以前お話しした「何か夢のある計画」「これとこれだけはやります」といったシンボルタワ的なものが明示できないか。伊達が悩んでいることというのは、他の府県での事例があるのではないか。他の地域のにぎわいをイメージしていく、真似るということではないが、そういう参考事例を戦略ごとに載せることができないか、と想っていた。

□委員

- ・委員が言っていたような、例えば、“北海道で一番起業しやすいまち”、“北海道で就農するなら伊達”、委員が提案した“伊達版CCRC”、委員の発言した“芸術文化を醸し出す雰囲気”といったキーワードがまだ反映されていない。網羅的で優等生の戦略となっており、よりクレイジーな戦略、やれたらいいな、というワクワク感がない。これでお金を取りに行くということであるのであれば仕方ないが、力点がわからない。

■座長

- ・他自治体との比較の話になるが、この計画の網羅性はそこまで高くないと思っている。ある意味ではやりたいことだけに特化しているといえる。他の自治体では、総合計画とさほど変わらないような書き方をしてきたところもある中で、当面目指すべきところ具体的に書いている方だと思う。
- ・起業しやすいまちに本当になれるかどうか、というのは言えない側面もある。P45書くか、もう少し、ある程度目指したいところをはっきり書くというご指摘だと思う。

●事務局

- ・目指す姿等に入れたつもりだが、インパクトが弱いということだろうと思う。全体的なバランスを踏まえると難しいところ。

■座長

- ・脩文するとしたらP45ぐらいではないか。あと、目指す姿に書き込めるのであれば「頑張っ目指す」という意思表示をするなど、筆をゆるめてもらって思い切った表現にさせて頂く。

□委員

- ・それでよろしいと思う。

3. その他

●事務局

- ・今の素案を持って一部修正をして、議会やパブリックコメントの手続きに進みたい。その後、議会や市民の意見があった場合は、各委員の皆様にお伝えしていく。大きく考え方が変わらない限りは有識者会議の招集は考えていない。仮に招集する場合は9月末頃となる。素案が一部修正になるのは間違いないので、修正版はお示ししていく予定。
- ・また、PDCAサイクルの中で、今後、この戦略の検証を行うことが必要になる。その際には、この有識者会議の委員の中から少し人数を絞って検証をお願いすることになるかと思う。内部で協議してご案内したい。
- ・4回にわたって有識者会議にご出席いただき、ご意見をいただいたことに改めて委員の皆様には厚く御礼を申し上げたい。

4. 閉会